

函館市教育振興審議会答申（案）

2021年（令和3年）10月29日付で本審議会に対して諮問された「函館市教育振興基本計画の中間年における計画の推進状況の検証および見直しについて」は、次のとおり答申する。

記

「函館市教育振興基本計画」（以下「計画」という。）は、郷土の歴史や文化を誇りに思い、地域の発展を支える人材の育成を目的とし、教育施策の総合的・計画的な推進を図るため、2018年3月に策定されたものである。

計画は、2018年度（平成30年度）から2027年度（令和9年度）までの10年間を計画期間としており、計画の中間年である2023年（令和5年）の改訂をめざし、これまでの計画の推進状況の検証および見直しについて審議を行ったところである。

計画の推進状況の検証については、審議会では、計画が策定されて以降、毎年度、事業ごとに詳細な点検評価を実施しており、2020年度（令和2年度）からは、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、未実施や一部未実施などの事業が見られたものの、各事業について、毎年度充実が図られるとともに、概ね計画どおり進められているものと捉えている。

また、計画の見直しについては、計画の根幹である「函館の教育がめざす人間像」や基本目標、計画および施策の体系などの基本的な考え方は継承することが妥当であるが、目標実現のために位置付けている取組内容等については、見直しが必要であるとしたところである。

なお、審議会の中で出された主な意見については、以下に示すので参考にさせていただきたい。

函館市教育振興基本計画の中間年における計画の推進状況の検証および見直しに関する意見（案）

【計画の推進状況の検証について】

- ・本計画の基本目標・施策に基づいた2018年度（平成30年度）から2020年度（令和2年度）の事業について、各事業の状況を経年で見ると、2020年度（令和2年度）は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、未実施や一部未実施などの事業が増加しているものの、評価において、2018年度（平成30年度）の「予定以上に進んでいる」「予定通り進んでいる」など高評価の割合や、2019年度（令和元年度）および2020年度（令和2年度）の「進捗」、「成果」、「課題」の視点に基づく総合評価における高評価の割合が、毎年度9割を超えるなど、事業の充実が図られている。
- ・また、令和元年度に評価の視点が、「進捗」、「成果」、「課題」に改善されたことから、比較可能な2か年の比較では、「予定どおり」、「成果が十分」、「課題はない（ほとんどない）」など、継続して高評価な事業が37事業見られるほか、その他、多くの事業において、概ね順調に進捗していると考えられる。

【計画全般について】

- ・中間年の見直しに当たって改訂の趣旨を記載する必要がある。
- ・本計画が教育大綱として位置付けられていることを記載する必要がある。
- ・「GIGAスクール構想」などの専門的な用語については、注釈をつけるなどの配慮が必要である。
- ・計画に記載の現状と課題については、現状に合わせて修正するとともに、新型コロナウイルス感染症についても触れる必要があるほか、市民が分かりやすい文言で記載することに努める必要がある。
- ・持続可能な開発目標（SDGs）の記載については、教育施策の総合的・計画的な推進という計画の目的を踏まえれば、事業の全てに17の目標が関連しているとも考えられることから、基本目標ごとに17の目標を示すのではなく、計画全般にかかるように示すことが考えられる。

【個別事項について】

基本目標 1 変化する社会を生きる力の育成

施策 1 確かな学力を育む教育の推進

- ・「主な取組」の1「授業改善の推進」の(2)と(3)は、ともに学習指導要領にある「主体的・対話的で深い学び」に関する授業改善の内容となっているため、統合してもよい。
- ・現在、学校に配置されている学校司書のことを記載したほうがよい。
- ・児童生徒に学習用端末が整備されたことから、情報モラルに関する教育活動やICTを活用した学習活動の充実が必要である。

施策 2 豊かな心を育む教育の推進

- ・いじめの未然防止などの取組は重要であり充実する必要がある。
- ・ジェンダー平等やLGBTなどの社会問題について、各学校においても、対応が求められてきている。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響を受けて体験活動が減少していることについて触れた方がよい。

施策 3 健やかな体を育む教育の推進

- ・令和3年の「函館市がん対策推進条例」の施行を踏まえ、学校において、がん教育を充実する必要がある。
- ・「和食」が世界文化遺産に登録されたことなどから、食育の充実が必要である。

施策 4 幼児教育の充実

- ・「主な取組」の1「幼児教育の質の向上」にある「幼児教育センター機能」は、建物を整備するような誤解を与えかねないので、表現を工夫した方がよい。

施策 5 多様なニーズに対応した取組の充実

- ・日本語指導が必要な児童生徒がいることから、指導について触れる必要がある。
- ・「主な取組」の2「不登校児童生徒等への支援」において、ICTを活用した支援の充実が必要である。

基本目標2 地域とともにある学校づくりの推進

施策3 学校間の連携・接続

- ・小中一貫教育など、学校間の「縦のつながり」だけではなく、「横のつながり」の充実を図る必要がある。

基本目標3 函館への愛着や誇りと未来へ飛躍する力の育成

施策1 函館への愛着や誇りを育む教育の推進

- ・「主な取組」の1「地域資源を活用した教育活動の推進」の(2)について、学校には、様々な分野の方が来校しており、限定するような例示はなくてもよい。

施策2 未来へ飛躍する力を育む教育の推進

- ・「主な取組」の2「キャリア教育の推進」において、小中高を通じて、「キャリア・パスポート」を活用していることから、そのことについて触れる必要がある。

基本目標5 心の豊かさを育む文化芸術の振興

施策1 文化芸術活動の促進・支援

- ・国の部活動改革を踏まえ、文化部活動について触れる必要がある。